

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671200263	
法人名	医療法人 青鳳会	
事業所名	グループホームみま石井	
所在地	徳島県名西郡石井町浦庄上浦524-9	
自己評価作成日	令和7年1月4日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	令和7年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根ざしたグループホーム作りを実現するために、町役場分館の運営協力委員として参画し、利用者が地域社会と自然に交流できるように取り組んでいます。一人一人がたとえ身体機能が低下しても、たとえ認知症が進行してもそれぞれの持てる力を発揮して社会生活を継続できるよう家族や地域住民、多職種と連携して支援しています。新型コロナは5類となり、地域イベントや様々な活動にも参加できる機会が増えましたが、感染状況により密になる交流については考慮し、対策を立てて参加しています。戸外での日光浴や周辺への散歩、ドライブの機会を増やし、屋内でのレクに趣向を凝らしています。また、ホームでの看取りについては、状態に応じて本人や家族様の意向をその都度確認しながら、指針に基づいた体制を整えています。看取り期においては、家族がいつでも時間を気にせず付き添えるように配慮しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、国道沿いの車どおりが多い場所に位置している。敷地内には、同一法人の運営する他サービス事業所が併設し、日頃の行事や災害対策等で連携を図っている。近隣の小学校の運動会やPTA主催のイベントなどには、利用者とともに参加している。地域の文化祭には、利用者が作成した作品を出展し、ともに展示を見に行くなど交流に努めている。協力医療機関との連携体制を整え、家族等と支えあいつつ、重度化や終末期における支援に取り組んでいる。協力医療機関による訪問診療に加え、精神科医や歯科医の往診があり、利用者が心身ともに安心した生活をおくることができるよう支援している。また、日頃から庭でのイベントやパンの移動販売の利用など、屋外で過ごす機会を設け、気分転換を図っている。家族等の協力を得て希望の場所へ外出したり、季節の花見に出かけたりして、利用者がいきいき暮らすことができるよう支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が作った基本理念であり、職員心得を毎朝提唱することで意識付け出来ている。朝一番、職員同士声を合わせることでチームケア実践の心構えにも効果を発揮している。	事業所では、理念を玄関やスタッフルームに掲示したり、朝礼時に唱和したりして、共有化を図っている。全職員そろって理念を読み上げることで、意識づけを行い、日頃の実践に繋げている。パンフレットにも理念等を記載し、家族や地域住民等に伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナも5類となり、交流の場が少しずつ増え参加傾向にあります。特に文化展には自作の作品を出展したり、見に行くことで活動に参加出来ている。散歩中の声掛けや挨拶等の交流は継続している。	事業所では、利用者とともに地域のウォーキング大会等の行事に参加するなど、交流を図っている。地域の小学校の運動会の競技に出場したり、夏祭りでブースを出展したりして、地域の一員として取り組んでいる。中学校の職場体験の受け入れも継続して行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これまで入居者と共に地域活動をしてきたことで、関係性は継続している。地域に出向くと声をかけて頂き、認知症の人の持てる力や日常生活について相談や質問、励まし等を頂く。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年第2回目から開催し、入居者の状況や生活の様子を書面にて作成し、役員の方々に参集頂き、報告、相談また意見を頂きながら関係を継続している。	年6回、運営推進会議を開催している。行事や入居者の状況等を報告し、各委員から地域の情報を得たり、意見交換したりしている。各委員から得た意見等は、職員間で共有し、サービスの質の向上に活かしているが、会議に多岐にわたるメンバーの出席を得るまでには至っていない。	今後は、会議にさらに多様なメンバーの出席を得ることができるよう地域の専門家等に働きかけられたい。事業所や地域の課題等について、多方面からの意見を得て検討することで、さらなるサービスの質の向上や地域連携に繋がることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者はホームの取り組みに対する姿勢を理解してくれており、運営推進会議等の定期的な状況報告や相談・情報交換をし、相互協力の関係を築いている。	管理者は、定期的に町担当窓口を訪問し、更新手続や入退きの報告等を行っている。随時、電話等でも相談を行い、助言を得るなど、協力関係を築いている。地域包括支援センターから入居相談を受けるなど、連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化の指針に沿って研修を行い、身体拘束ゼロに取り組んでいる。委員会では日々のケアについて検証し、入居者の心身の自由と安全を確保できるよう努めている。	事業所では、定期的に身体拘束適正化委員会や研修を開催している。家族等から拘束の申し出があったときも、リスクについて話しあい、代替案を示すなど、拘束をしないケアに努めている。利用者の外出したい様子を察知すると、職員が付きそうなど、閉塞感を感じることがないように支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置、定期的で開催している。研修では高齢者虐待防止法をもとに、身体拘束を含む虐待の徹底防止、不適切ケアの未然防止が出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニットに対象者はおらず、資料にて研修を行っている。必要時に適切に活用できるよう家族にも情報提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書について、専門用語は誰にでもわかりやすい言葉にし、一つ一つの項目に対してその都度理解を確認し、疑問や不安があれば納得頂けるよう丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	感染症予防のため、面会には不便を強いていることもありますが、来訪時の家族との会話や表情から日頃の思いを汲み取れる事が出来るよう配慮している。	職員は、日頃の生活や会話のなかから、利用者の意見や要望を聞きとっている。家族等からは、来訪時に声かけを行い、意見を得ることができるよう働きかけている。利用者の心身状況に変化があった時は、随時、報告を行い、意見等を引き出している。把握した意見等は、職員間で共有・検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティングでは自由に発言でき、管理者が職員の意見や提案を代表者に直接伝わるよう仲介する役目を担っている。また法人においては個人評価票や意向調査で職員意見の聞き取りを行っている。	管理者は、日頃から職員とコミュニケーションを図り、職員が意見や提案を伝えやすい関係づくりに努めている。必要に応じて、個別に話を聞くようにしている。把握した意見等は、職員間で検討したり、法人本部へ伝えたりして、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課において職員それぞれを評価し、モチベーションを上げられるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修や勉強会、法人での研修会を開催し、知識の習得に努めている。また職員の習熟度に応じて必要な研修が受けられるよう計画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設と交流を図り、話を聞くことで自施設と比べ振り返る機会となり、良いところは見習い、悩みや問題は共感して考えるようにし、適宜情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			1階	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	状況において可能であれば面談にて本人の話を傾聴し、思いを把握できるよう努めている。入居前の段階で本人像を具体的にイメージし、安心してホーム生活を始められるように配慮している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談の段階で家族からよく話を聞き、思いを受け止め、不安を和らげるよう努めている。これから一緒に本人を支えていく信頼関係を築けるよう努力している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活習慣や要望を把握し、社会資源を含めた支援の方法を考えるようにしている。まずホームでの生活に慣れ、地域のかや他部署と連携し、暮らしが充実出来るように工夫している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一番身近にいるという関係性の中で、職員はお世話をするだけでなく、入居者の言葉に褒められたり癒されたりすることも多い。このことを理解し、感謝しながら支え合って暮らすことを大切にしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が出来にくい時があっても、電話や手紙、ホームからのお便りで本人の様子を伝えたり、疎遠にならないように努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の訪問、また甥・姪・孫様等からお誕生のお祝いや敬老のお祝いと一緒にメッセージカードが届く。時には県外からの来訪もあつたりして、関係が途切れず続いている。	事業所では、利用者の友人や知人の来訪を受け入れている。家族等の協力を得て、馴染みの美容院に出かけたり、自宅へ草抜きに帰ったりしている。年賀状や手紙、電話のやりとりも支援し、馴染みの関係が途切れることのないよう工夫している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度や個性の違いから交流が持ちにくい人もいるが、職員が仲介することで同じ空間でも孤立せず、安心して暮らせるように配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	受け入れ先には現在の本人の状況だけでなく、入居期間中の関わりからの知り得た本人の個性や好み、考え方を詳しく伝えるようにしている。家族とは地域住民として関係性を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人に興味を持ち、その人となりを理解する努力をしている。本人の言葉、表情、行動などから思いを汲み取り、家族からも本人の人生や考え方の傾向を伺いながら意向の把握に努め、最良策を検討しあっている。	事業所では、利用者一人ひとりに担当職員を配置している。日頃の会話やかかわりのなかから、意向等の把握に努めている。意思の表出が困難な利用者については、職員の働きかけへの反応や表情の変化等から、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にも協力してもらい利用者個々の生活歴やエピソード情報を収集し、本人の価値観や思考を理解し、これまでの生活を尊重したケアを心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートを活用し、職員皆で書き込んで検討している。心身状態や一日の過ごし方の現状を一人の判断ではなく多角的に捉えるように努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、目標の達成度をモニタリングし、本人と家族の意向や評価を合わせて、目標やケアの内容を検証する。状態の変動があるときや終末期には話し合い、介護計画の見直しを行う。介護計画は全職員に周知している。	事業所では、利用者や家族、主治医、看護師、管理栄養士等関係者の意見を聞きつつ、介護計画を作成している。担当職員が主となり、情報を集めたり、モニタリングをしたりして、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の具体的な記録はケアの内容評価の指標になる。それを基に家族や職員で情報共有をしている。些細な気づきも話し合い、ケアに反映させる努力をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況は変わるのでその都度必要なことは何かを判断し、何ができるかを考える。日課や業務の流れより入居者への対応が優先される時もあり、柔軟な姿勢で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の協力委員会、学校、老人会、民生委員や地域包括支援センターと協働し、各イベント、子供の育成、地域振興に持てる力を発揮する努力をしてきた。文化祭には作品を出展したり展示物を観賞した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療機関だけでなく、これまでのかかりつけ医を受診したり、訪問医療も受けられる。必要な診療科目についても、本人や家族の意向に沿うよう支援している。緊急時の対応や搬送先も確認している。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診は、家族等の協力を得つつ、臨機応変に支援している。定期的な協力医の訪問診療や歯科医の往診の体制を整備し、適切な医療を受けられることができるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問介護と契約し、馴染の看護師と相談しながら健康管理をしている。24時間体制でいつでも必要な指示を仰ぐことが出来、検査や処置、また終末期・看取り期の協働に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院については病院との情報交換、相談に努めている。環境の変化に伴う認知症の進行を考え、また機能低下や廃用が進まないよう、早期退院に向けての方向性を関係者と話し合い、調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期、看取りについても指針を整理し、契約時及び定期的に意向確認を文書にて行う。事業所で出来ること、出来ない事を見極め、説明し、出来る限り本人や家族の意向に沿った対応が出来るよう、かかりつけ医とともに協力し、支援している。	事業所では、入居時の段階で、利用者や家族等に重度化や終末期における事業所の方針について説明し、意向を確認している。玄関の隣に静養室を設け、看取り期を家族等とともに支えることができるよう取り組んでいる。医療との連携体制を整え、チームで支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による急変時や応急処置等の対応について研修を定期的に行っている。安全委員会を開催して事例検討を行い、急変が予測される時は速やかに勉強会や訓練を行い、実践の力を立てよう教育、指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害、水害避難訓練を行い入居者も全員が避難し、避難所までの経路確認、移動訓練も一緒に行う。住民参加は中止。水や食料の備蓄に加えてオムツや生活用品の備えもしている。	事業所では、年2回、日中と夜間における火災を想定した避難訓練を実施している。うち、1回は、消防署の協力を得ている。水や食料等の備蓄品を整備し、ローリングストックで管理している。同一法人の運営する併設の他サービス事業所と協力体制を築いているが、地域との協力体制を構築するまでには至っていない。	今後は、避難訓練に地域住民の協力を得るなど、協力体制の構築に取り組まれない。夜間帯等、職員のみでの誘導の限界をふまえ、地域との協力体制を築くことで、さらなる利用者の安心・安全に繋がることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー確保、個人情報の取扱いに関する研修を行っている。無意識に発する言葉遣いや声のトーンには特に気遣い、互いに注意しあうことで、配慮の足りない言動で尊厳を損ねないよう徹底している。	職員は、利用者一人ひとりに敬意を払った対応を心がけている。管理者は、不適切な声かけ等になることがあった場合には、その場で職員に声をかけるようにしている。事業所内でプライバシー保護等に関する研修を実施し、サービスの質の向上に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の気持ちを職員本位で解釈せず、思いを表せるような雰囲気づくりをし、先走らず待つことに努めている。人によっては選択肢の中から選べるようにしたり拒否に対しても受け入れて善後策を考える。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活習慣やペースを優先して考えるようにしている。食事とお茶の時間は揃うが、その他の時間は気ままに過ごされる方もいる。特に1階は「自由人」と称する入居者が多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の習慣や希望にそう支援を心がけている。男性は髭剃り、女性の方は特に頭髪の乱れの無いよう注意して整えている。定期的に訪問理美容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を外部委託をしているが、朝食は施設で作って提供している。盛り付けや片付けを手伝ってもらったり、おやつ作りやホームで調理をする時は一緒に作ることもある。	事業所では、朝食の調理を行っている。定期的に、利用者と一緒におはぎやお寿司、お好み焼き等を調理している。菜園で栽培したゴーヤや苺、玉ねぎ、分葱を利用者と一緒に収穫したり、調理に活用したりしている。梅のシロップや干し柿づくりなど、季節に応じた食の楽しみを工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックし、脱水や低栄養に注意して健康管理している。給食になった為栄養価の管理がしやすくなった。嚥下や咀嚼に合わせた形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、一人ずつ洗面台で口腔チェックをしながら本人の能力に合わせて支援している。自己にて出来ない方についてはガーゼやスポンジで拭いている。歯科検診や訪問診療も受けることができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを記録検討し、トイレで排泄出来るよう誘導している。パット類も排泄に応じた適切なものを選び、心地よく生活できるように支援している。入居時のオムツが外れ、トイレ誘導が可能になった方もいる。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。パターンや利用者のサインに応じて、見守りやトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。パッド等も利用者の状況にあわせたものを使用するよう調整しつつ、排泄の自立に向けて支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢であり、運動量も少なく軟便剤を服用する人もいるが、おやつや飲み物を工夫したり、腹部マッサージなどで便秘予防に努めている。家族情報の調整剤で解決している人もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望や習慣に出来るだけ沿った入浴をして頂いている。拒否される方にはその理由を考えたり、羞恥心や気持ちに配慮して対応し無理強いはいしない。代わりに爪切りや足湯をしたりしながら誘導するとすんなり誘導が出来たりする。	事業所では、少なくとも週2回の入浴ができるよう支援している。入浴を拒む利用者については、声かけや人を変えるなど、促しの配慮を行い、無理強いすることなく入浴を支援している。利用者の希望に応じて、同性介助を行っている。入浴剤を使用したり、季節に応じてゆず湯を行ったりして、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠のパターンは個人差があるので、習慣を継続できるように心がけている。眠れないことがあっても重要な原因が無く支障がなければ眠ることに執着せず、お話をしたり其の時間を充実するように考えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬管理表や投薬時に職員同士で確認し合い、誤薬や飲み忘れのないよう管理している。入居者がなんの病気でもどんな薬を飲んでいるか、その効能と副作用を理解し、医師と相談して調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	感染予防対策で行事や外出等の楽しみが減っていますが、施設周辺の散歩や屋内での楽しみごとを考え、毎日のレクメニューを充実させている。家族や知人の差し入れ等も周りに配慮しながら楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いつでもとはいかないが、感染状況や天候を見ながらの屋外での気分転換をしている。個々の状態により参加者は決まっていますが、ドライブ帰りの車中では次に行きたいところのリクエストもあったりする。地域の人と出会うことも楽しみの一つとなっている。	事業所では、気候のいい日に、近隣の散歩に出かけたり、玄関先で日光浴やシャボン玉をしたりして、外気にふれる機会を設けている。利用者の希望に応じて、買いもの支援を行っている。家族等の協力を得て、希望の場所へ出かけるなど、利用者一人ひとりにあわせた外出ができるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金を出納管理し、家族に確認してもらっている。パン屋の訪問販売では自分で支払ったりもしている。買い物の機会は多くなく、レク等で仮想の買い物を楽しめる機会を儲けたいと思っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持つ入居者は今はいない。希望に応じて職員が電話の取次ぎをしたり、暑中見舞いや年賀状をはじめ手紙やメッセージカードのやり取りの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な生活感がある雰囲気作りをし、感染症予防のため、特に換気と消毒に重点をおいている。テーブルの仕切りは外しているが、対面には距離を置き密にならないように配慮している。	共用空間は、利用者の動線や見守りに配慮し、シンプルな家具配置を工夫している。利用者と一緒に作成した手芸品や季節の花、行事の写真等を飾り、季節感や温かみを感じることができる空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳の和室があり、一人で寛ぐことも気の合う入居者と語らうことも出来る空間がある。ウッドデッキで日向ぼっこ出来る環境もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、居室には本人の望むものや愛用品を持ち込んで、それぞれに居心地と使い勝手の良いお部屋作りに努めている。	居室には、利用者一人ひとりの使い慣れたタンスや本棚、机等の家具を持ち込んでもらっている。利用者一人ひとりの好みや趣味にあわせ、その人らしい居室となるよう工夫している。また、家族等の写真を飾り、安らぎのある空間づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の能力に合わせて家具やベッドの配置や向きを変えている。家具に手をつき支えにすることもあり、寄りかかると危険な物は置かないようにしている。表示はわかりやすく、間違いを招かない工夫をしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が作った基本理念、職員心得を毎朝提唱することで意識付けをしている。朝一番から声を揃えることでチームケア実践の心構えにも効果を発揮している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で行事は縮小されていますが、散歩中に挨拶を交わしたり、お買い物で声をかけて頂いたときなど、交流は継続されています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これまで入居者と共に地域活動をしてきたことで関係性は継続している。地域に出向くと声をかけて下さり、認知症の人の持てる力や日常生活について相談や質問、励まし等を頂く。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年第2回目から開催し、入居者の状況や生活の様子を書面にて作成し、役員の方々に参集頂き、報告、相談また意見を頂きながら関係を継続している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者はホームの取り組みに対する姿勢を理解してくれており、運営推進会議等の定期的な状況報告や相談・情報交換をし、相互協力の関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化の指針やマニュアルに基づいて研修を行い、委員会では日々のケアについて検証し、入居者の心身の自由と安全を確保できるように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置し、全職員を対象に身体拘束を含む虐待防止、不適切ケアを未然に防ぐための研修を行っている。言葉かけやちょっとした振る舞いも適切であるかどうか互いに注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在はユニットに対象者はおらず、資料にて研修を行っている。必要時に適切に活用できるよう家族にも情報提供している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書について、専門用語は誰にでもわかりやすい言葉にし、一つ一つの項目に対してその都度理解を確認し、疑問や不安があれば納得頂けるよう丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	感染症予防のため、面会には不便を強いていることありますが、来訪時の家族との会話や表情から日頃の思いを汲み取れる事が出来るよう配慮している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティングでは自由に発言でき、管理者が職員の意見や提案を代表者に直接伝わるよう仲介する役目を担っている。また法人においては個人評価票や意向調査で職員意見の聞き取りを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課において職員それぞれを評価し、モチベーションを上げられるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修や勉強会、法人での研修会を開催し、知識の習得に努めている。また職員の習熟度に応じて必要な研修が受けられるよう計画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設と交流を図り、話を聞くことで自施設と比べ振り返る機会となり、良いところは見習い、悩みや問題は共感して考えるようにし、適宜情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	2階	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	状況において可能であれば面談にて本人の話を傾聴し、思いを把握できるよう努めている。入居前の段階で本人像を具体的にイメージし、安心してホーム生活を始められるように配慮している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面談の段階で本人や家族とよく話をし、入居に至った経緯や思いを受け止め、安心して生活をしていただける信頼関係を築けるよう努力をしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活習慣や要望を把握し、社会資源を含めた支援の方法を考えるようにしている。地域の力や他部署と連携し、ホームでの生活に慣れ、暮らしが充実出来るように工夫している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ空間で喜怒哀楽を共にし、楽しく暮らせる関係性を築けるよう心がけている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は出来にくくても電話や手紙、ホームからのお便りで日々の様子を伝えたり、疎遠にならないよう努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の訪問も徐々に増え、町内だけでなく県外からの訪問客も増えた。感染症予防対策をしながら家族や知人・職員と外食やショッピングに行くこともあり、地域との交流も増えた。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度や個性の違いから交流が持ちにくい人もいるが、職員が仲介することで同じ空間でも孤立せず、安心して暮らせるように配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	2階	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	受け入れ先には現在の本人の状況だけでなく、入居期間中の関わりからの知り得た本人の個性や好み、考え方を詳しく伝えるようにしている。家族とは地域住民として関係性を継続している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いをそのまま口にすることが出来ない人も多いが、生活を共にする人として一人一人に興味を持ち、人間像や思いを知るために努力している。安心して暮らしていけるよう職員の意見を出し合い、支援している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は、入居者を共に暮らす人として家族や関係者からの話を聞き、個々の生活歴やエピソードを知る努力をしている。また本人の話の中から本人の価値観を尊重したケアを心がけている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートを活用し、職員間で書き込んで検討している。一人の判断でなく、多角的に捉えている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月目標の達成度や現状をモニタリングし、家族の評価や意向と合わせて目標やサービスの内容について話し合っている。本人の心身の状態や思いの変化に応じて介護計画も変更している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に加えて生活の様子を一行日誌にし、家族に報告している。担当者だけでなく職員全員の記録が反映され、細かな気づきが共有される。計画の見直しにも役立つ。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況は変わるので、その時々に必要なことは何か判断し、できる限りの手を尽くしている。画一的な支援でなく一人の為に考え、行動するよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	2階	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の協力委員会、学校、老人会、民生委員や地域包括支援センターと協働し、イベントの開催、子供の育成、市域振興にも持てる力を発揮する努力をしてきた。今年は文化祭の作品展、作品の鑑賞をしたり、夏祭りにも参加ができた。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療機関だけでなく、これまでのかかりつけ医を受診したり訪問診療が受けられる。必要な診療科目についても本人、家族の意向に添うよう支援している。緊急時の対応や搬送先も確認している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約し、馴染の看護師と相談しながら健康管理をしている。24時間体制でいつでも必要な指示を仰ぐことができ、医療連携のサポート、必要な検査や処置、医療職ならではの関係を築いてくれる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院については病院との情報交換、相談に努めている。環境の変化に伴う認知症の進行を考え、また、機能低下や廃用が進まないよう、早期退院に向けての方向性を関係者と話し合い、調整している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期、看取りについての指針を整理し、契約時及び定期的に意向確認を文書にて行う。事業所にできること、できないことを見極め、説明し、できる限り本人や家族の意向にそった対応ができるよう、医療職と協力して支援している。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作り、医療職と連携して定期的に研修を行っている。急変が予測される時や発生事例があったときは、速やかに勉強会や訓練を行い、実践力を身につけるよう教育、指導している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、同時に地震、水害時の研修、避難所までの経路確認、移動訓練も行う。今年は住民参加は中止した。水や食料の備蓄に加えてオムツや生活用品の備えもしている。			

自己	外部	項目	自己評価	2階	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉や声のトーンに気をつけ、入居者の尊厳を損ねないような声かけに配慮している。全職員でプライバシーの確保について話し合い、恥ずかしい思いをさせたり不適切ケアのないよう取り組んでいる。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の気持ちを職員本位で考えるのではなく、自己決定を待つことができるよう心がけている。入居者の言葉だけでなく、表情や仕草からも思いを読み取れるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な業務の流れはあっても、入居者の年齢も高くなっている為、体調や気分、希望に合わせて優先すべきことを考えて組み立てている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で身だしなみを整えたりお洒落が出来ない人には職員がお手伝いをし、頭髪の乱れがなく、清潔感のある装いに配慮している。女性は訪問美容、男性は馴染の理髪店を利用している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が給食形態になり、調理の手伝いの機会は減ったが、盛り付けや片付けを手伝ってもらうこともある。朝食は職員が作るため、みそ汁の具等を一緒に考えている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食になって栄養価の管理はしやすくなった。食事量、水分量はチェックして脱水にならないよう注意して健康管理をしている。嚥下や咀嚼の状態に合わせた食事形態も提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけし、口腔ケアの介助をし、おやつの前には嚥下体操を行い、就寝前には義歯洗浄剤を使用している。必要に応じて訪問歯科検診や治療も行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、さりげなく誘導し、なるべくトイレで排泄できるよう支援をしている。簡単にオムツに頼らず、出来る限りの自立支援を心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢であり運動量も少なく、軟便剤を服用する人もいるが、おやつや飲み物を工夫したり、腹部マッサージなどで便秘予防に努めている。家族情報の整腸剤で解決した人もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日時も固定は無く、時間をかけてゆっくりと入浴してもらっている。拒否の強い方にはタイミングを図り、声かけをし、無理強いしないよう誘導策を巡らせている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠のパターンは個人で違うので、その方のリズムを見出し無理の無いように心がけている。日によって就寝時間が違う人もあるので、その時はホールでゆっくり過ごしてもらおう。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	朝・昼・夕・就寝前と薬袋に色分けし、誤薬や飲み忘れの無いように管理をしている。入居者がどんな病気でもどんな薬を飲んでいるか、その効能・副作用を理解し、医師と相談して調整する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	感染症予防対策をしながらの外出や、散歩や屋外での楽しみを計画し、毎日のレクメニユーを充実させた。家族との外出にはなるべく人混みを避け、生物に気をつけての外食も楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出しており、たとえ重度になっても散歩や行楽にはできる限り出かけてきた。家族や地域の協力もあり、花見などは全員で出かけられるよう努力してきた。今年は体調不良の方もいた為、少人数の外出にとどまった。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金を出納管理し、家族に確認してもらっている。職員と一緒に出掛け、お気に入りの服や化粧品などの日用品を買いに行かれる人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて電話の取次ぎや、伝達役をする。家族からの手紙はとても喜ばれ、お返事を書くお手伝いもする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁や廊下には作品や行事の写真などを貼ったり、共有トイレや浴室の清潔と防臭、コロナもあり換気を徹底している。2階は日当たりが良く気持ちが良いが、季節によっては日差しが不快にならないように空間の演出に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりのよいフロアで景色を眺めたり、少人数でお茶を飲んだりお喋りを楽しんでいる。階下への行き来も自由で、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の好むものを置いたり、使い慣れた家具を持ち込んだりして自分流に配慮している。ぬいぐるみを枕元に置いたり、仏壇を置いている人もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーではあるが、車椅子や歩行不安定な方にとって危険なものを除去したり、水こぼれなどが無いよう常に気を配っている。わかりやすい表示の工夫をしたり、自立した生活支援を考えている。		